



長崎大学医学部保健学科 作業療法学専攻内 代表 沖 英一

企画・編集 | 長崎県作業療法士会 広報局 長崎県南島原市口之津町甲 1181

哲翁病院 TEL:095-786-3226

さいかい

2017.7
vol **102**
summer

あなたの笑顔に出会う夏にする

Contents

- 第24回県学会報告
- つきあってOT
- 「ロリーポップ・ネットワーク」の紹介
- 精神分野トピックス
- 発達分野トピックス
- 新人紹介
- 第25回県学会要項
- パパさん OT へのエール
- 県士会リーフレットの紹介

OT 学会きてね



第25回 県学会

要項が掲載されています。

演題募集期間 | 9/1~9/30

今自分にできること～県学会運営を通して～

第24回長崎県作業療学会 学会長 福島 浩満



平成29年3月18-19日の2日間、第24回長崎県作業療学会を開催しました。

テーマは「crisis ～今自分にできること～」。

学会終了後に某テレビ局でメインタイトルと同じドラマが始まったのには驚きました(笑)

2日間の参加者は延べ450名、実人数320名。多くの皆様にご参加いただき、本当にありがとうございました。今回、初めて学会運営に関わらせてもらい、多くの経験と新しい人とのつながりが増え、心から実行委員、および学会長をやったよかったと思っています。自分たちがやりたいことを考え、練りに練った企画を実行する。そこに100万円に近い予算が付き、それをもとに約1,000名の会員や、その他関連職種の方々に広報誌や、ホームページ等で自らがデザインしたものを掲載し発信する。そして多くのスタッフの協力を得て、大会を実行する。会員の会費から捻出される大きな予算を使うことには、大きな責任が伴いますが、同時にやりがいにもつながります。

準備開始から当日までのこの1年間、私にとっての大切な意味のある作業でした。このような経験をさせていただき、心から感謝するとともに、厚く御礼申し

上げます。若手OTの皆さん、ここ長崎においてはこのような経験ができるチャンスが皆さんにも十分にありません。決して一部の人だけに限られるということはありません。聞くとところによると、長崎の県学会スタイル（県士会の考え）はどこにでもあるものではないようです。わりと自由な企画を立案でき、プログラムをはじめ、1から作れる縛りの少ない県学会。各地区持ちまわりになって3巡目。学会長や実行委員も中堅から若手が中心となり運営しています。その地域や実行委員のカラーが存分に出せ、意欲があれば若手も運営に関われる。そのため毎回内容や構成が異なってくるような開かれた組織。これは他県の学会と比べると「自由な学会」と言えるそうです。



発表者のみなさん

そして「長崎の県学会は面白い」、そんな声は既にあるようで、今回鹿児島県士会から2名の視察があり、私と同世代のお二人は「鹿児島の県学会を変えたい」「もっと参加者が楽しめる学会を作りたい！」とのあつ〜い想いを持って視察されていました。多くの意見交換ができ、各企画の案内と説明をしながら「これ、パクらせてもらいます」の言葉も多数いただきました。今後も近隣県からも参加が得られるような、注目されるような、魅力と活気溢れる県学会を、自分たちが作っていく！そんな想いをぜひ、もっと多くの皆さんに抱いていただきたいと思います。若手OTの皆さん、積極的にどんどん自分から手を挙げて下さい！実行委員は決してクローズな組織ではありません。必ず自分のプラスになりますよ。県学会、およびその他県士会活動へのご理解とご協力、そして参加のほどをよろしくお願いします。

さて、少し内容を振り返りますと、今回、実行委員の協力と理解のもと、多くの新しい試みを展開しました。学会誌のダウンロード配信、楽器店店主や資生堂スタッフ、調理師専門学校講師など複数の異業種の方からの講演、そしてOT養成校学生参加企画や障害を持たれた方々の自助グループの活動報告、就労移行支援事業所の出展によるcaffの開催、日本作業療法士協会50周年記念講演の同時開催などなど。さらに、県士会ホームページの学会ページの一新。そして広報誌やfacebook、学会誌でも登場させていた長崎地区開催では恒例？の学会イメージキャラ「どらニャン」の制作まで（実はこのキャラは長崎医療技術専門学校の学生がデザインしてくれました）。

この他にも多々、工夫を凝らして準備、運営をしましたが、皆様方にはこの県学会はどのように

映ったでしょうか。学会誌のダウンロード配信については、大型タブレットやスマートフォンが普及している背景に期待し、思い切って踏み切りました。デザインやレイアウト、PDFデータ化まで全て実行委員でやることで、ダウンロード配信分の費用はなんと0円！しかし、我々実行委員からすると正にpriceless！賛否両論あったかと思いますが、世の流れとして、一步前進したところではありますので、可能であれば今後の県学会でも継続して欲しい部分ではあります。

最後に、「横のつながり」について、皆さんはどのようにお考えですか？あの病院、施設にはどんなOTが居て、どんな考えを持っている方なのか。逆に自分のことをどれだけのOTが知ってくれているのか。わかりやすいところでは転院や転所先のOTのことをご存じですか？「顔の見える関係」への努力はできていますか？今後益々地域で協力して、連絡を密に取り合って、対象者を支えていかなければならない現状で、OT同士の横のつながりを深める意識は大切ではないでしょうか。正直、今回の学会のレセプション参加者を集めるのには苦労しました。各研修会参加も良いですが、職場、職域、興味を持っている領域の異なるOTが集まってコミュニケーションをとる場として、県学会や県士会総会后、また各地区での懇親会は有益です。若手の皆さんもぜひ、つながりを広げることを目的に、次の機会には参加してみませんか。横のつながりが増えて得することはあっても、損することはないはずですよ！先に述べた県学会の運営メンバーに入るのにも、横のつながりは重要ですから。何よりこれから地域で活躍できOTになるために、これもまたひとつの、今自分にできることではないでしょうか。



学生参加型事例検討会



鹿児島と熊本からの視察
左から鹿児島士会の藤田さん、先成さん
右から熊本から友情視察の宮本さん、私

<ロリーポップ・ネットワークの紹介>

～当事者同士が起ちあがってから今日まで～



「病院退院後、家の中から外に出てみんなで一緒にどこかへ出て冒険しよう！！」

ぼくは、長崎市滑石町に住んでいます森内浩と云います。8年前に仕事中に脳出血で倒れた中途障害者です。3年半前に失語症の障害者同士でこの「ロリーポップ・ネットワーク」を起ち上げました。現在のメンバーはぼくの脳出血を筆頭に脳梗塞、脊髄梗塞、心筋梗塞、高次脳機能障害、膠原病、パニック障害、くも膜下出血、ウェルニッケ脳症、両上肢機能障害、先天性体幹機能障害、心室性頻拍症、線維筋痛症、頭蓋内腫瘍などです。長崎市内を中心に、大村市、佐世保市、諫早市に、あと通信メンバーで高知県にもいて現在36名です。

「病院退院後、家の中から外へ出てみんなで一緒にどこかへ行って冒険しよう。ということで月に2回みんなで集まって出かけます。史跡めぐりや遠足、バーベキュー、カラオケ大会、海水浴、一泊旅行など企画の段階から会場の下見、交渉までみんなでやります。その「発足から今日まで」の体験発表を一度やってみないかと長崎北病院

の脳卒中委員会からお誘いがあり、講話を初めてさせてもらいました。思ってた以上に好評を得、以降に長崎地域リハビリテーション塾、NCN長崎ケアネットワーク（会場は長与病院デイケア）、長崎県作業療法士学会、長崎県立大学看護学科の老年看護学ゼミなどいろんな所でさせてもらっています。びっくりしたことに緑が丘中学校では人権講話もさせていただきました。

そもそも何故このようなグループを起ちあげたのか？

それぞれに大病をして退院後に、ある人は社会復帰できても、またある人はリハビリに専念できてもだんだん「友達」が少なくなっているのに気づきました。我々病人同士でまず友達になろうということになり、もしかしたら同じことを思っている人が絶対にいるはずだ、探してみようっということになりました。配布するチラシ（当初、グループ名は失語症ネットワーク）があらゆる患者向けに変わったので「ロリーポップ・ネットワーク」になりました。ロリーポップとはアメリカ流の「ペロペロキャンディ」のことです。写真に映るときは笑顔になりましょうの願いをこめてのネーミングでした。ぼく自身もこのロリーポップ・ネットワークが出来て3年半、流れが180度変わりました。「次の楽しみ」があるからみんな仕事に、リハビリに頑張れることが身をもって体験できました。とにかく楽しくて楽しくてしょうがありません。「こんなもんか、ぼくの人生なんて」であきらめるようなマイナスの気分の中で天寿を全うしたくありません。我々ロリーポップ・ネットワークの話聞いて下さい。そして体験なさって下さい。心からお待ちしています。



ロリーポップ・ネットワーク

〒852-8052 長崎市岩屋町11番31号
電話095-857-2270
携帯090-7538-8898

三和中央病院 精神科リハビリテーション部 デイケア科 紹介 ～就労支援プログラムを中心に～

三和中央病院 長沼晃司

＜当院の概要＞

当院は、塚崎病院と三和病院が統合され2001年12月1日に三和中央病院として開設されました。施設は自然に囲まれ、近くには世界遺産登録されたばかりの軍艦島があります。

「安心できる心温まる医療」を基本理念とし、入院され不安を募らされている患者様だけでなく家族様への不安も寄り添い丁寧な対応を心がけています。さらには地域と共にあり続ける病院として、大川清掃への参加なども行っています。

リハビリテーション部は、看護師、作業療法士、理学療法士、精神保健福祉士、助手など30名が所属し、院内作業療法科とデイケア科、理学療法科の3つの科で構成されています。デイケア科は看護師5名、作業療法士3名、精神保健福祉士3名、助手1名の計12名が所属しています。

＜デイケア＞

精神疾患や感情障害などの「福の会」とアディクションの「竹の子クラブ」、2つのグループに分かれ活動しています。

平成28年4月より、就労支援モデル事業が始まりました。ハローワークと協力してデイケアメンバーの就労斡旋を開始しました。当デイケアの就労支援プログラムは、『仕事の技術だけではダメ。』という事を本人が理解していただけるようなゼミや作業を行っています。

ゼミでは、ご自分の病気の事や、睡眠、服薬についての大切さを考えるプログラムなどを行います。

作業では、工程の中である程度の負荷をかけることも行っています。この負荷をかけることは、デイケアでしかないもので、日常の中で、きついけど何とか生活できる事を体験していただく事だと思っています。

その中で、疲れている事を認識する事はとても重要だと考えています。そしてこれ以上、活動を行えば症状が悪化してしまうラインを知る必要が長期就労を目指す以外でも社会生活の中でも非常に大切になります。

就労支援プログラムでは、現在1名の方が就労されました。その姿を見た他のメンバーがさらにモチベーションが上がり就労へ向けて頑張っています。



『不器用さを考える』

長崎市障害福祉センター 江頭雄一

「なわとびや跳び箱ができない。」「字が上手に書けない。」など子どもたちの中には不器用さによって学校生活上での困難さを持つことがあります。また、大人になっても仕事上でのミスにつながるケースもあります。これまで「しょうがない」「もっと練習しろ」と簡単に流され、理解が十分でないままのことが多く、本人のつらい想いに寄り添わず、それぞれに適した支援がされていませんでした。『不器用さ』には周りの理解、そして私たちOTなどセラピストの関わりが大切であると思われます。

『不器用さ』へのアプローチを考えると単にできていない運動や行動だけではなく、感覚・認知などの特性に注目することが大切です。また、自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠如多動症（ADHD）、学習症（LD）との関連、そしてOTとしては「発達性協調運動障害（DCD）」を理解して、一人一人に応じた支援を検討し、実際に行っていくことが大切です。

〔発達性協調運動障害 Developmental coordination disorder ; DCD〕

DSM-5（精神障害のための診断と統計のマニュアル第5版 テキスト改訂版）の診断基準から以下のようにまとめられます。

「日常生活における協調運動が本人の年齢や知能に応じて期待されるものよりも不正確であったり、困難である。日常生活活動や学業などで支障が起きている。また、それらは知的能力障害、視力障害、運動に影響を与える神経疾患によるものではない。」

今回、不器用さやDCDについて研究をされながら、OTとして臨床の場で実践および支援をしている東恩納拓也先生（みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家／長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻）にお話を伺いました。

Q: 不器用さの背景となるもの（認知特性など）は何でしょうか。

A: 脳機能の問題が背景として考えられます。まずそのひとつに、外部からの感覚刺激の処理が上手くできないことがあげられます。主に感覚の問題としては前庭（平衡）感覚、固有受容覚といった身体感覚を適切に受け取りにくいことがあります。その他に（本人が実施する）パフォーマンスの問題としてはバランスの弱さ、ボディーイメージ・運動プランニングといった運動（行為）を組み立てづらいことが言われています。また、DCDに限らず、不器用さはASDやADHD、LDに併存することは分かっている、それらの障害が不器用さの要因として考えられる場合もあります。

また、運動と視覚機能とのネットワークの弱さも背景として考えられます。目で見た情報と運動を上手く結び付けられず、枠から線がはみ出してしまう、模倣が上手くできないなど、目と手足の協調、目と全身の協調に問題がみられやすくなることも考えられます。

Q: 不器用さ（DCD含む）を持つ方（子ども、大人）の生活上で困っていることは何でしょうか

A: お子さんであれば、学校生活です。体育でのリズムのあるダンス、鉄棒、体操などに限らず、学習面であると字が汚かったり、筆圧が安定しなかったりすることがあります。音楽での道具が上手に操作できないなど副教科で表面化しやすいと思います。また、問題としてはそれらがお子さんの“自信の低下”に影響してしまうことです。周りから「運動音痴」「努力不足」と言われて傷つき、理解が十分にされない状況になって、対人関係に問題が生じてしまいます。大人になると苦手な場面から避けるようにはなりますが、不器用さそのものは残っています。起きやすい場面としては更衣、洗濯、調理、髭剃り、化粧など家事で正確にできなかったり、必要以上に時間を要することがあります。また、仕事上でもメモを早くとれない、物にぶつかりやすい、車の運転に影響を及ぼすことが考えられます。

Q: 不器用さに対してOTのアプローチはどのようなことが考えられますか。

A: 「過程指向型」と「課題指向型」に分かれます。「過程指向型」は不器用さの基となる点へアプローチをしていき、例えば、感覚調整障害による感覚面の偏りやアンバランスさであれば感覚統合療法を実施するなど、障害の根っこに対して実践していきます。「課題指向型」は子ども（または大人）自身それぞれが困っている課題に対して特異的にアプローチをしていきます。不器用さを示す課題は一人一人違いますし、なわとびと字を書くことでは必要な能力は異なるため、不器用さに対しては課題指向型アプローチが最も効果があるといわれています。OTとしては生活に目を向けているため、対象となる子どもに合わせて、背景となる要因を捉えて「過程指向型」「課題指向型」とともに使い分けていくと良いと思います。

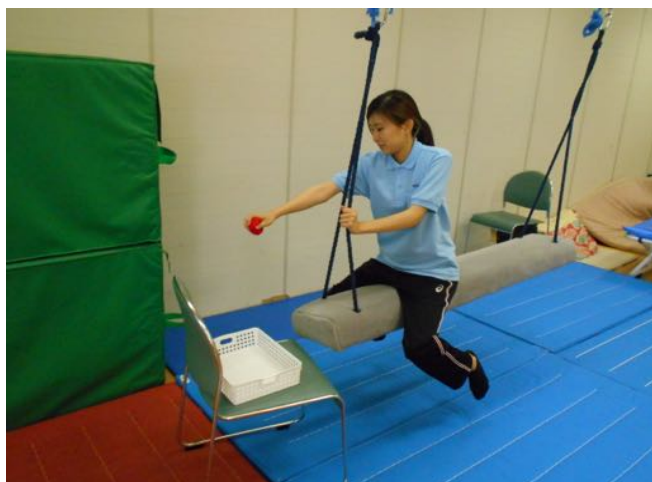
Q: DCD学会についてお話を教えてください。

A: 日本のDCDの研究は海外と比べると遅れており、DCDの理解および支援、実践を広く啓発していくことを目的に発足されました。昨年4月に名古屋で日本DCD研究会が実施され、今年の4月神戸で学会として第1回学術集会在開催されました。今後、毎年1回開催される予定です。医療・教育・心理・当事者と幅広い方々が参加しています。個人的には、不器用さに対する支援や実践の担い手として、多くのOTの皆さんと一緒に学会に参加し、様々な実践やより良いアプローチについて学びあえればと考えています。

Q:最後に東恩納先生の想いがあれば教えてください。

A: 日本では不器用さはあまり目立たないと言われていました。しかし、療育・学校訪問などを通して不器用さによって困っているお子さんは多くいます。そのようなお子さんは友だちと遊ばずに教室の片隅にすることがあって、支援を必要としています。ただの不器用として片づけるのではなく、それぞれの背景を周りが十分に理解していくことが大事であり、OTとして適切に支援をしていきたいです。

筆者の職場である長崎市障害福祉センターでも不器用さを持つお子さんに対して、作業療法を実施しています。東恩納先生の話にもあげられた「過程指向型」と「課題指向型」の写真を下記に載せています。(対象者はスタッフが演じています)



「過程指向型」: 感覚統合療法

大型遊具などを利用して前庭感覚や固有受容覚に対して適切な刺激を提供しながら、バランスおよび体幹を保つ力など身体感覚面の中枢機能を高める活動を行います。子どもに合わせて必要な刺激の質や量を調整しています。



「課題指向型」: キャッチボールの練習

言語理解が得意であればことばによるフィードバックを行うなど、子どもの長所となる点に注目しながら達成度を高めていきます。スモールステップを設けて、本人が成功体験を積めるように課題内容を検討していくことが大切です。

不器用さについて感覚面、認知面それぞれからの視点を持ち、本人や周囲の気持ちに寄り添い、理解することが大切であり、学校や職場など関係機関と連携も検討しなければいけません。そしてそれぞれのQOLを高めるアプローチに取り組むことが必要だと考えます。

平成29年度長崎県作業療法士会

New OT

New Face



新入会員の紹介です。

氏名 ①所属 ②出身校 ③趣味 ④抱負	園田涼太郎 ①長崎北病院 ②国際医療福祉学 ③食べる事 ④PF(患者様最優先)	松尾郁弥 ①長崎北病院 ②国際医療福祉大学 ③サッカー ④患者様の為に出来る事を全力でしていくことです	川上凌平 ①長崎北病院 ②国際医療福祉大学 ③アウトドア ④明るく元気に頑張ります
秦悠那 ①長崎北病院 ②長崎大学 ③映画鑑賞・ドライブ ④何事にも前向きに全力で取り組んでいきたいです	谷口葉菜 ①鈴木病院 ②長崎リハビリテーション学院 ③友人と美味しいものを食べに行く ④患者さんの人生を豊かにできるOTになりたいです	増田美由紀 ①長崎北病院 ②長崎医療技術専門学校 ③カメラ ④生活を一番に考えられるOTになる	平山里央 ①長崎北病院 ②九州中央リハビリテーション学院 ③山登り・散歩・ドライブ ④患者様に「出会えてよかった」と思ってもらえるようなセラピストになりたい
森康治 ①田上病院 ②国際医療福祉大学 ③スポーツ ④OTとしての職務を果たす		磯田龍輝 ①三原台病院 ②長崎医療技術専門学校 ③帽子収集 ④抱負:なし	光成優衣 ①三川内病院 ②長崎リハビリテーション学院 ③趣味:なし ④抱負:なし
植田紗弓 ①大村市民病院 ②国際医療福祉大学 ③映画鑑賞 ④OTとしても社会人としても患者様に対応出来るようになる	平井沙季 ①大村市民病院 ②柳川リハビリテーション学院 ③音楽鑑賞・食巡り...etc ④OTらしい考えを持つ.患者を思いやる気持ちを持つ	小林由季 ①長崎原爆病院 ②長崎大学 ③おいしいものを食べる事 ④目の前の患者さんを元気にできるように日々精進します	田中由衣 ①小島居諫早病院 ②長崎リハビリテーション学院 ③かわいい洋服をみる事 ④自分にしかできないOT活動を行えるようにしたいです
小川良輔 ①宮崎病院 ②長崎医療技術専門学校 ③魚釣り ④笑顔を大事にしたいと思っています	森亮太 ①ろうけん西諫早 ②長崎リハビリテーション学院 ③フットサル ④利用者様第一に頑張ります	松本里佳子 ①長崎北病院 ②西九州大学 ③ライブ参戦 ④患者様を第一に考えられるOTになりたい	神崎晴菜 ①姉川病院 ②長崎リハビリテーション学院 ③サッカー観戦 ④笑顔で頑張ります

ご入会・ご入職おめでとうございます。

熊裕太郎

- ①長崎リハビリテーション病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③映画鑑賞
- ④患者さんの生活に
より添えられるように頑張る

田中恵海

- ①長崎リハビリテーション病院
- ②熊本保健科学大学
- ③釣り・犬とたわむれる事
- ④頑張ります

真弓彩錦

- ①十善会病院
- ②国際医療福祉大学
- ③ランニング・家庭菜園・
映画鑑賞
- ④患者さんに癒しの時間
を与えられるように頑張ります

天本明穂

- ① あぐりハウス
- ②長崎リハビリテーション学院
- ③野球観戦
- ④利用者様に信頼されるOTになる

原田瑞希

- ①長崎みなとメディカル
センター市民病院
- ②国際医療福祉大学
- ③書道
- ④頑張ります

久間健志

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②久留米リハビリテーション
学院
- ③スケートボード・七厘焼き
- ④一生懸命頑張ろうと思います

岡本高太郎

- ①長崎
リハビリテーション病院
- ②広島医療保健専門学校
- ③ロードバイク・スノー
ボード
- ④頑張ります

荒木こなみ

- ①菊池病院
- ②福岡和白
リハビリテーション学院
- ③食べ歩き・魚釣り
- ④患者様とラポールを築き笑顔
で頑張ります

高木勇栄

- ①重工記念長崎病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③ボルダリング
- ④患者様からもスタッフから
も信頼されるOTになります

本村真紀

- ①池田病院
- ②熊本総合医療
リハビリテーション学院
- ③アクセサリ作り
- ④先輩方に少しでも早く近づけ
るよう頑張ります

古賀夏美

- ①出口小児科医院
- ②長崎大学
- ③おいしいものを食べる事
- ④明るく元気に頑張ります

久間萌々華

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②福岡和白
リハビリテーション学院
- ③ソフトテニス
- ④笑顔で頑張ります

真弓彩錦

- ①十善会病院
- ②国際医療福祉大学
- ③ランニング・家庭菜園・
映画鑑賞
- ④患者さんに癒しの時間を
与えられるように頑張ります

武次周介

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②福岡リハビリテーション
専門学校
- ③魚釣り
- ④精一杯頑張ります

川原滉介

- ①自宅
- ②長崎医療技術専門学校
- ③テニス・ランニング
- ④何でも挑戦すること

西山真平

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②福岡リハビリテーション
専門学校
- ③温泉
- ④力いっぱい頑張ります

福島有紀

- ①耀光リハビリテーション
病院
- ②長崎リハビリテーション
学院
- ③ライブ参戦
- ④笑顔あふれるOTを目指します

松野由佳

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②神村学園専修学校
- ③食べ歩き
- ④毎日笑顔で頑張ります

森山悠平

- ①耀光リハビリテーション
病院
- ②長崎医療技術専門学
校
- ③バスケット・温泉
- ④精一杯頑張ります

永野裕士

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③テニス
- ④患者様の生活をしっかり見れ
るOTになります

片平耕太

- ①大村市民病院
- ②福岡リハビリテーション
専門学校
- ③テニス・釣り
- ④人間として成長する



野田ありさ

- ①長崎大学医歯薬学総合研究所科
保健学専攻作業療法学講座
- ②長崎大学
- ③ゲーム
- ④院生でもあるのでほどほどに
頑張る



一般社団法人 長崎県作業療法士会

第25回長崎県作業療法学会

2018年2月10日(土)・11日(日)



テーマ：『わざを磨く～地域包括ケアを担うために～』

学会会場（長崎ウエスレヤン大学 諫早市西栄田町1212-1）

会員1,000円 非会員10,000円 学生 無料 一般公開 無料

学 会 長 あ い さ つ

地域包括ケア構築には作業療法士の関わりが求められています。これは作業療法士の先輩方が培ってきた技術や実績に期待が集まっているものと思われます。しかし、私たち若い作業療法士は、社会に応えられる「わざ」をもっているでしょうか。治療効果を引き出すために理論的裏付けのある「わざ」、過程や成果をみせる「わざ」、意欲や主体性を引き出すための「わざ」、いろんな「わざ」があると思います。そのような「わざ」を、個々の作業療法士が磨きあげる場、そして、実践した先に何があるのか考える場、が必要と考え、今回の学会テーマを「わざを磨く～地域包括ケアを担うために～」としています。今学会で長崎県作業療法学会は25回を数えます。回を重ねるごとに充実した学会になってきており、今学会においても「わざ」を磨くための教育講座や関連分野の特別企画などを企画しております。ぜひ多くの皆様の参加をお願いします。

第25回長崎県作業療法学会 学会長 中山 浩介

開催要項

会期	2018年2月10日（土）・11日（日）
会場	ウエスレヤン大学（長崎県諫早市西米田町1212番地1）
テーマ	わざを磨く ～地域包括ケアを担うために～

1日目

	メイン会場 西山ホール	第2会場 ウエスレー館	第3会場 食堂
10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00	受付		
	9:50 開会式	10:00 一般演題 I	特別企画
	教育講座 I		
	11:10 一般演題 II		
	11:40 教育講座 II		
	12:20 一般演題 III		
	昼休み		
	14:20 公開講座 I 講師 :高森聖人 氏		特別企画
	16:00 公開シンポジウム		
	1日目終了		
レセプション			

2日目

	メイン会場 西山ホール	第2会場 ウエスレー館	第3会場 食堂
	受付		
9:00	9:00	9:00 一般演題 IV	特別企画
10:00	教育講座 III	10:10	
		一般演題 V	
11:00	10:40 教育講座 IV	11:20 一般演題 VI	
12:00			
12:20	昼休み		
13:00			
14:00	公開講座 II 講師 :石田竜生 氏		
15:00	2日目終了		

<教育講座>

身 体 分 野	「整形外科疾患における作業療法の新展開」 講師：許山 勝弘 氏（福岡リハビリテーション病院）
---------	---

発 達 分 野	「地域で子どもを豊かに育てる」 講師：土田 玲子 氏（NPO法人 なごみの杜）
---------	--

精 神 分 野	「心の病をもつ方への就労支援（仮）」 講師：吉野 賢一 氏（田川療養所）
---------	---

老 年 期 分 野	「認知症、地域で生きるOTのわざ（仮）」 講師：川口 明史 氏（田川療養所）
-----------	---

<公開講座>

公 開 講 座 Ⅰ	「地域包括ケアから地域共生社会へ（仮）」 講師：高森 聖人 氏（大分県作業療法協会会長）
-----------	---

公開 シンポジウム	「地域包括ケアから地域共生社会へ～私たちの取り組み紹介～ （仮）」 発表者：未定
--------------	--

公 開 講 座 Ⅱ	「笑いで介護の現場は楽しくなる！」 講師：石田 竜生 氏（日本介護エンターテイメント協会代表）
-----------	--

レセプション



レセプション会場
L & Lホテル センリュウ（諫早市永昌東町13-29）

開 始 ： 19:00～21:00
参加費 ： 5000円（予定）
ビンゴゲームや楽しめる余興を企画しております。

学会場より送迎バスをご用意しております。
またレセプション会場周辺の有料駐車場・宿泊ホテル
などの情報など随時、長崎県作業療法士会ホームペ
ージに掲載していきます。

皆様の多数のご参加をお待ちしております。

一般演題募集要項 (応募受付期間：9月1日～9月30日)

1. 応募資格

- 1)長崎県作業療法士会会員は応募資格があります。
ただし、2017年度県士会会費未納者は応募資格がありません。応募前の会費納入が必須です。
- 2)他職種の方は共同演者になることができます。

2. 応募受付期間

2017年9月1日(金)～2017年9月30日(土)21時
必着。

期間の延長は行いませんので応募期限の厳守をお願いします。

3. 応募内容

一般演題のみの募集となります。

なお、一般演題発表を事例読替希望の方は後日、
各自で申請して下さい。

「研究と報告」「実践報告」「事例報告」など
「その1、2」と連動せず、1演題で完結して下さい。

4. 発表形式

「口述発表」のみを予定していますが、演題数によって
はポスター発表となる場合があります。

5. 投稿演題の使用権

演題の二次使用権・許諾権は長崎県作業療法士会
に帰属します。

6. 倫理的事項

対象者の同意、倫理的な配慮、著作権等への配慮
について、倫理的事項を遵守し、本文中に対象者の
同意についての記載が必須です。また、研究や
事例報告の作成過程にて、個人の尊厳、人権の尊
重等の倫理的配慮を十分行ってください。なお、
他の著作物を引用する際は、本文中に出典の著者
と発行年数（フルネーム、西暦）を明記してくだ
さい。

7. 抄録原稿作成上の注意

- 1)制限文字数は800文字となります。
フォントはMS明朝、大きさは演題名14ポイント、
氏名・施設名・本文は12ポイントで統一ください。
尚、図表や画像の掲載はできません。
- 2)発表者を筆頭著者とし所属が複数ある場合は氏
名の後ろに所属番号を付けてください。

8. 査読と採否

演題採否は査読委員の審査意見を元に委員会
で決定後、投稿者に通知し、不採択時は理由を明
記します。

9. 応募方法

- 1)原稿はMailで受け付けます。件名に【第25回長
崎県OT学会演題申し込み】、本文に所属・氏
名・電話番号を明記し、抄録原稿と演題登録申
込書を添付し下記アドレスへ送信ください。
- 2)抄録フォーマットと演題登録申込書は県士会ホ
ームページよりダウンロードして下さい。
- 3)演題採択担当より登録完了のお知らせを致しま
す。必ずインターネットアドレスにて申し込み
下さい。
- 4)抄録修正は応募受付期間中に限り受け付けます。
件名に【第25回長崎県OT学会演題修正依頼】、
本文に所属・氏名・電話連絡先を明記し、抄録
原稿を添付し下記アドレスまで送信ください。

10. 発表時間

一律、発表時間7分以内、質疑応答時間3分です。

11. スライド作成要領

学会誌及び県士会ホームページ上に、作成上の
留意点を掲載致します。ご確認ください。

募集要項に関する問い合わせ・応募先

E-mail：ken-gakkai@nagasaki-ot.com

演題採択委員会（担当：原田 洋平）

演題応募期間は延長しません。

第25回長崎県作業療法学会では、演題登録期日の延長を行いませんので、応募期限の厳守を
お願いします。

学会の事前登録をお願いします。

長崎県作業療法士会ホームページより事前に参加申し込みをお願いします。1月頃から申し込
み受付を開始します。

学会全般に関するお問い合わせ先

E-mail：info-gakkai@nagasaki-ot.com

第25回 長崎県作業療法学会実行委員会

お父さんOTへのエール

医療法人 東洋会 池田病院 中嶋康貴

お父さんOTへのエール第1号ということで何を書いてよいか困惑していますが、せっかくお話を頂いたので、自分が経験したことを少し書いてみようと思いました。私は、作業療法士として身体障害領域の病院に勤務し、現在9年目になります。新人で結婚し、子供は3人(長男・次男・三男)、まさにだんご三兄弟です。父、私、妻(OT)、子供3人の6人暮らしで、家の中は笑い声、泣き声、叫び声が聞かれいつも賑やかです。

本題に入りますが、まずは子供を育てながら仕事ができる環境に感謝しています。それは、協力してくれる仕事仲間がいるからこそ、子供が病気をした時など急遽シフトを変更したり、早退できるのではないかと思います。私の家族の場合は、子供に何かあったらほとんど妻が早退しています。妻がどうしても早退が困難な場合のみ私が早退させてもらいますが、やはり早退するのは気まずいです。今後も仕事仲間への感謝の気持ちを忘れず仕事したいです。

子供ができたことで、自分のためだけでなく家族のためにも働くという意識が強くなり、より責任感が増しました。また、仕事を終わらせて早く帰宅できるように、時間の使い方を考えるようになり、メリハリある生活になりました。週2〜3回、飲みに出かけていましたが、徐々に飲み会に行く回数も減っています。それにより肝臓の数値も正常に近づいています。

仕事では、患者のご家族のことや家の環境のことをより身近に深く考えるようになりました。患者や同僚とのコミュニケーションとして子供の話で盛り上がり、子供がいてくれてよかったと感じます。

つい最近経験した一番大変だったことは、三男が2月22日に産まれたのですが、妻が1月の中旬より入院し、すべての家事・育児を私と父でしなければならなかったことです。今までは妻がパートだった為、朝の子供の準備・支度はすべて任せていました。つまり妻に頼りすぎていたわけです。

まず、子供が朝7時に起床していたのを6時に起床するように生活リズムを変えました。夕食何を作れば良いか考えながら仕事をし、帰宅すると子供のお風呂、食事の準備、洗濯、歯磨き、明日の子供の保育園の準備と一日を通してゆっくりできる時間がありませんでした。この生活が1ヶ月以上続き、身体的にも精神的にも疲れていましたが、子供の笑顔や患者の笑顔を見ると癒されなんとか頑張れました。

また、朝早く起きて人生初の子供のお弁当も作りました。仕事から帰宅し弁当箱をみると2人とも完食していました。子供が「パパお弁当おいしかったよ」と言ってくれて本当に涙がでました。このような経験ができて、妻のありがたさを実感し、心から感謝することができ、夫婦の絆がさらに強くなりました。今では妻も出産後退院し家族円満に暮らせています。

今後も、お父さんOTとして、仕事も家庭も両立できるように懸命に頑張りたいと思います。



可愛い息子たち♡



リーフレット 第2版 完成しました。

作業療法士とは

Occupational Therapist(OT)

入浴や食事など日常生活の動作や、手工芸やレクリエーションなど様々な作業活動を通して、身体と心のリハビリテーションを行う専門家です。病院・施設だけでなく地域で活動している作業療法士もいます。身体機能に限らず、活動・参加まで幅広くみることで出来るのは作業療法士の特徴です。



病気や怪我をしても自分のことは自分で出来るよう練習します。



料理や、買い物などやりたいこと、必要とされていることの練習を積極的に行います。



心に障がいがある方のサポートを行います。小児のリハビリも専門で行っています。



対象者が希望している目標を共有し、達成できるように一緒に努力します。

作業療法士は生活行為向上マネジメントを用いて対象者の「したいこと」「想い」を見つけ実践することで、QOLの向上を目指します！

生活行為向上マネジメント：MTDLPで出来ること！

Management tool for daily life performance: MTDLP

1. 長年に渡りQOLの向上を図ることが出来ます。
2. 介護度の改善・維持に効果があります。
3. 「できること」が増えることで、ADL・IADLの向上が図れ、日常生活自立度の改善・維持に効果があります。
4. MTDLPを用いることで、多職種の方と目標を共有しやすくなり、目標達成に向けてみんなで協力し合うことができます。

対象者の自立支援を効果的・効率的に支援するために作業療法士は、対象者自身の「持っている力＝できる力」の見極めを行い、可能性を引き出します。

お問い合わせ先
長崎県作業療法士会 事務局
E-mail: jimunagasaki-ot.com

地域包括ケアシステムにおける

作	業	OT
療	法	士
活	用	術

作業療法士は生活の視点で対象者を支援する専門家です。

一般社団法人 長崎県作業療法士会

作業療法士は対象者、地域住民の「自助」・「互助」を引き出し、地域作り・街作りに貢献します！

CASE 1 介護予防

OTは

地域住民向けの介護予防教室を開催できます！

- ・認知症予防教室
- ・転倒予防教室
- ・介護技術教室
- ・作業活動教室

ご要望に応じて作業療法の専門性を生かし、地域住民が介護予防を身近に感じてもらえるよう取り組めます。

自立支援をサポートします！

療育の提供・向上を図りながら、日常生活の自立をサポートします。

社会保障ばかりに頼らない自立した生活を支援します。要介護、要介護認定率の軽減に尽力します。

CASE 2 地域ケア会議

OTは

情報に基づいて対象者の予後予測を立案できます。

希望するようサポートが必要になるのか、実施される見込みがわかりやすくなります。

一人一人にあった福祉用具の提案が出来ます。

障害のある施設利用者の認定や提案を行います。また、利用状況に合わせて最善案を提案を行います。

作業療法士は地域・生活をみる事ができる専門家です。

地域特性を踏まえた中・長期・アドバイスが出来ます。

困難事例の解決に向けてアドバイス、支援します。

地域課題を課題にし、地域の皆さんと協力して解決に向けて取り組めます。

その方の生活をマネジメントできます。

CASE 3 認知症初期集中支援チーム

OTは

必要に応じて認知症の評価を行います。

認知症の医学的知識に基づいたステージごとの評価・診断機能の発揮が可能です。

BPSD(認知症の行動と心理症状)の対応策へのアドバイスが出来ます。

BPSDの要因を把握することで、本人だけでなく家族の負担を大きく減らすことができます。

たとえ認知症の診断を受けられても生活の質が低下しないようアドバイスを行います。

地域資源の活用を行い社会参加を促します。

医学的な知識の基、現状を把握し、必要な援助を行います。

今回のリーフレットは「包括ケアシステムにおける作業療法活用術」という大テーマのもと、作成しました。前回の第1段は3年ほど前、私が広報局の部員として最初に頂いた仕事でした。地域の皆さんに作業療法士について知ってもらいたいという思いから、一般向けリーフレットを作成しました。

あれから時間が経ち現在は包括ケアシステムに向けて、国は大きく変わろうとしています。私は、ありがたいことに地域在住の高齢者の方を対象に「認知症予防教室」「転倒予防教室」などを開催させていただく機会があります。地域の方はまだ作業療法士を知らない方も多くいらっしゃいます。しかし公演後に「人の役に立ついい仕事をされていますね」とお褒めの言葉を頂いたことがあります。作業療法の視点を広めることは私たち作業療法士の役割の1つです。作業療法士が地域に進出していくためには、地域の方との交流を行うだけではなく、作業療法士を使ってくださる行政との繋がりを強化することも大切だと思います。

今回のリーフレットを見ていただくと、作業療法士に出来ることもたくさん書いていますが、地域の方・行政が作業療法士に求めていること、期待されていることも多く含まれています。地域の方・行政の方から「こんなことしてくれるなら、作業療法士を頼ってみよう！」「作業療法士を選んで良かった」と思ってもらえるよう日々の業務、任された業務を頑張りたいと思います。

今後このリーフレットは各地区の包括支援センターなどに配布予定ですが、それだけでなく会員の皆さんにも何枚かお配りすることを計画します。日頃関わりのあるケアマネージャーや施設職員の方に配布し改めて作業療法士について知っていただく機会の1つとして利用していただきたいと思います。



県士会軟式野球チーム 今年も奮戦しました。野球を通して親睦を深めましょう！



編集後記

さいかい102夏号いかがでしたか？
今号は、地域感溢れる内容にしたくて表紙から頑張っちゃいました。担当患者様がぜひ！とおっしゃってくださったおかげで素敵な笑顔を撮ることができました。

初めての原稿集めに編集...パソコン操作も決まった動きしかできないため本当に苦戦しました。
ぜひ皆さんには温かい目で読んでいただけると嬉しいです。

もうすぐ私も産休に入りますが、先輩方が書いてくださった以前のさいかいを読ませていただきながら頑張りたいと思います。

そして何より、2月に行われる長崎OT県学会！！
学会長は、我らが広報局の中山理事が務め上げますのでぜひぜひご参加いただき、皆さんの多くの笑顔をお待ちしております。(本多・林田)

